

シーン - 4 伊豆沼・内沼よみがえれ在来生物プロジェクト事業

事業目的

ラムサール条約登録湿地である伊豆沼・内沼では、平成8年以降外来生物が急増し、ブラックバスによる在来魚の捕食や、アメリカザリガニによる沈水植物の採食により、在来生物の減少が見られます。

市民参加型の駆除活動等により外来魚の数は減少しているものの、在来生物の数は依然少ないため、多様な在来生物が生息・生育していた昭和50年代前半の自然環境を取り戻すことを目標に、在来生物を増やす取組を行います。

事業効果

CO2削減効果	-
その他	-

事業内容

平成26年度事業費 8,000千円

1 在来生物増加促進対策

在来魚産卵魚礁の設置

屋外適地での在来生物の保存系統確保と増殖

在来魚生息状況・在来植物生育状況のモニタリング調査

2 外来生物の駆除

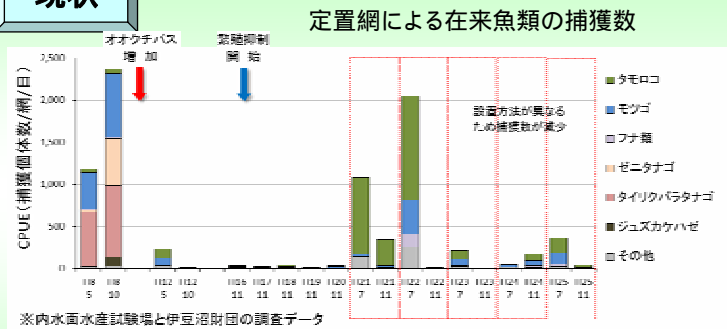
ブラックバス・ブルーギル等の駆除

アメリカザリガニの駆除・近隣生息域からの侵入防除

ゼニタナゴ

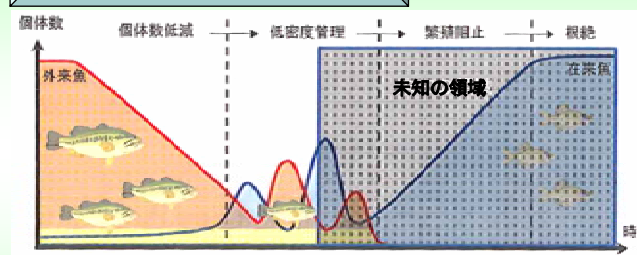


現状



これまでの在来魚増加対策については外来魚駆除が中心であり在来魚の増加は自然まかせで、個体数も増減を繰り返している。

税導入後のイメージ



外来魚個体数の低密度管理、繁殖阻止と併せて、在来魚の棲みやすい環境を整備し、在来魚の増加を目指す。